サンタクロースによろしく

よねっち

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
サンタクロースによろしく

【Ｎコード】
Ｎ７１６２Ｐ

【作者名】
よねっち

【あらすじ】
高橋圭吾は何をやってもダメな１９歳フリーター。
ある日、妹、凛が事故にあい大怪我に。
そこに現れた現役サンタ・・・クラウス。
妹を助けてもらった圭吾はクラウスと一緒に
「幸せ」を届ける旅に出ることを決意する。
青年とサンタが繰り出す涙あり笑いありのファンタジーストーリー！

ｐｒｅｓｅｎｔ１　白髭と先輩と妹（前書き）

一回読んでみてください！

ｐｒｅｓｅｎｔ１　白髭と先輩と妹

１２月２５日・・・クリスマス。
１人の青年が郵便局に居た。

「せ、先輩・・・これはどこに・・・」
「これはここって言ってんだろ！何回言えば分るんだよ！」
「す、すみません」
「あやまってる暇があったら仕事覚えろ！」
怒鳴り声は外まで聞こえた。

「はぁ・・・」帰宅途中、青年は息を白くさせ、雪の上を歩いて行った。
青年の名は、高橋圭吾。１９歳。彼女なし。顔立ちは悪くないが、勉強、運動などは一切できない。
彼が唯一得意なことは、人を笑わせることぐらいだ。

「おい。そこの青年、待ちなさい」
低く、弱弱しい声が圭吾を呼び止めた。
「はえ？」圭吾が振り向くと、そこには赤い服を着た白髭のおっさんが立っていた。
「サ、サンタ！？」圭吾は思わず声を裏返してしまった。
すると少し、満足気のサンタが言った。
「そうとも。わしが１０６代目サンタクロースの、サンタ・クラウスじゃ。よろしく！」
クラウスはどんと親指を立て、前に突き出した。
しかし、圭吾はひきつった顔を元に戻し、死んだ目でクラウスを見つめた。
「おっさん。僕は忙しいんだ。相手にしてる暇はないよ。」

そう言い残し、圭吾は背を向けた。
「待て！わしは青年に幸せを届けに来たんだ！」
「あっそ。ありがとね～」
圭吾は適当な言葉を残し、その場を去った。

「ただいま～」
圭吾が家に帰ると、リビングから女の子が飛び出してきた。
「おにぃちゃぁぁ～～～～ん！！！」
彼の妹、凛が圭吾に抱きついた。
「おかえり！今日はね、カレーだよ！凛も手伝ったんだよ！」
「そっか。んじゃあ、早く食べないとな～」
「うん！」
圭吾がリビングに入ると、そこには明るく微笑む母の恵が立っていた。
「おかえり」「うん、ただいま」
圭吾はにっこり笑い、テーブルの椅子に座った。

やがて、カレーが出てきた。小さなころから食べているカレーだ。
一度もまずいと思ったことなんかない。
「おいしい？」凛が顔を近づけた。
「おいしいよ？」
味は一つも変わってない。昔からの味。

・・・食べ終わると、少し辛いことに気づいた。
「凛か・・・」圭吾はにっこり笑い、凛の頭を軽くたたいた。
「風呂入るわ～」
「お風呂まだよ？」恵が少し焦ると、「シャワーだけだよ」
圭吾は服を脱ぎ、脱衣所の洗濯機の前のかごに入れた。
「兄貴！」「おわっ」
パンツを脱ぎかけたとき、弟の龍が飛び込んできた。

「一緒には入らんぞ？」「入りたかねーよ！それより凛がやべぇ！」
圭吾はパンツでリビングへ向かった。リビングには、血だらけなり、タンスの下敷きなっている凛がいた。
「凛！おい！」圭吾が叫ぶが、目は覚めない
「兄貴、どうすんだよ！」「知るかバカ！」
二人は焦ったが、恵は冷静で、腕を組み、壁に寄りかかっていた。
「母さん何やってんだよ！」
龍が叫ぶと、「下手に触っても仕方ないでしょ！」
恵は拳に力を入れ、太ももを強くたたいた。
「龍、タンスどかすぞ！」「ああ！」
二人がタンスを持ち上げ、凛を引っ張り出した。
そのとき、ちょうど救急車が来た。
「大丈夫ですか？」隊員が問いかけるが、もちろん返事はない。
凛は救急車の中に運ばれ、圭吾たちも病院へ向かった。

凛は手術室へ運ばれ、赤いランプがついた。
すると、医師が圭吾たちの前に来た。
「とても危険な状態です。頭を強打し、肺も一つ圧迫されていました。
・・・覚悟しておいてください。」
「なっ・・・」圭吾は言葉を失い、唇を震わせた。
すると、圭吾の前におっさんが現れた。
「・・・クラウスのおっさん・・・」
「妹に会いたいか？」
「・・・あんたに何ができんだよ。」
「質問に答えなさい」「だから・・・」
「質問に答えなさい！！！」クラウスは声を荒くし、圭吾を殴った。
圭吾は壁に叩きつけられた。
「言ったはずじゃ。わしは１０６代目サンタクロースのサンタ・クラウス。

・・・あんたに幸せを届けに来た」
「・・・凛に会いたい・・・」
「・・・これをあけなさい。」
クラウスは圭吾に小さな箱を差し出した。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7162p/

サンタクロースによろしく

2010年12月31日04時19分発行